

## 平成22年度東京都病院会計決算審査意見書

### 第1 審査の概要

1 審査の対象 病院経営本部

#### 2 審査の方法

この決算審査に当たっては、知事から提出された決算書類が、病院事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかを検証するため、決算諸表、総勘定元帳その他の帳簿及び証拠書類の照合等を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

また、本事業の経営状況を把握するため計数の分析を行うとともに、経済性の発揮及び公共性の確保の観点から事業運営が適切に行われているかを検証した。

3 審査の期間 平成23年6月1日から同年9月5日まで

### 第2 審査の結果

#### 1 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、別項指摘事項を除き、病院事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められる。

#### 2 事業運営について

平成22年度の病院事業は、普通病院6、小児病院1、精神科病院1の計8病院において、病床数4,964床の施設規模により運営され、年間延べ患者数が、入院では145万147人、外来では181万7,496人となっている。

これを前年度と比較すると、入院では6,608人、外来では3万4,335人、それぞれ増加している。入院が増加した主な要因は、再編整備を行っていた多摩総合医療センター及び小児総合医療センターが本格稼動したこと、また、外来が増加した主な要因は、小児総合医療センター、墨東病院及び大塚病院等の外来患者が増加したことによるものである。

収支状況は、総収益1,427億余円に対し、総費用1,422億余円であり、差引き4億余円の純利益となっている。

財政状況は、資産2,745億余円、負債405億余円及び資本2,339億余円となっている。

当年度の経営状況は、4億余円の純利益が生じている、しかしながら、医業損益は、患者数の増加及び診療報酬改定に伴う単価増などにより、入院及び外来ともに収益が増加しているものの、再編整備に伴う人件費増や減価償却費等の経費増により、医業費用が医業収益を上回る状態（228億余円の医業損失）が継続している。

さらに、収入は、駒込病院の全面供用開始などにより、患者数の増加が見込めるものの、診療報酬は平成22年度にプラス改定が行われたが、平成23年度には改定がないため、患者一人当たりの大幅な単価増までは見込むことができない状況にある。

一方、支出では、再編整備に伴う人員や減価償却費の増等により、費用が増加するものと見込まれる。

このように、今後の経営面は、依然として厳しい状況にある。

病院経営本部が、「患者中心の医療」の実現と都民に対する医療サービスのさらなる向上を図るためには、コスト縮減や収益の増加への取組を行うなど、一層の経営努力を行い、経営基盤を強化する必要がある。

### 3 指摘事項

#### (1) 決算に関するもの

ア 固定資産、建設改良費（資本的支出）及び経費を適正に計上すべきもの

取得価格10万円以上の備品（耐用年数1年以上）は、東京都病院事業財務規則（昭和39年3月31日規則第123号）により、固定資産とすることとされている。

ところで、松沢病院における備品の購入状況を見たところ、地上デジタル放送への移行に対応するため、表1のとおり、液晶テレビを購入し、固定資産の取得として、建設改良費から128万7,600円支出していた。

しかしながら、取得価格が10万円未満の物品については、営業費用で支出するべきであり、建設改良費で支出していることは適正でない。

この結果、128万7,600円が固定資産及び建設改良費（資本的支出）で過大に、経費で過少に計上されている。

本部は、固定資産、建設改良費（資本的支出）及び経費を適正に計上されたい。

(表1) 液晶テレビの購入状況

(単位：台、円)

規格	台	単価（取得価格）	計
32型	5	80,040	400,200
26型	29	30,600	887,400
合計			1,287,600

イ 雑支出及び特別損失を適正に計上すべきもの

東京都病院事業財務規則（昭和39年3月31日規則第123号）に基づき定められた勘定科目表では、特別損失は、当年度の経常費用から除外すべき損失のうち、2,000万円以上のものを計上するとしており、雑支出は、本来、特別損失とすべき費用のうち、1件2,000万円未満のもの及び医業外費用のうち他の科目に属さないものを計上するとしている。

ところで、平成22年度決算の雑支出について見たところ、次のとおり、適正でない事例が複数認められた。

(ア) 小児総合医療センターは、固定資産の台帳の修正を行ったことに伴う過年度損益修正損が3,157万7,355円生じているにもかかわらず、特別損失に計上せず、雑支出に計上している。

(イ) 本部は、旧府中病院建物の平成22年3月分の減価償却費を修正したが、過年度損益修正損が2,533万2,534円生じているにもかかわらず、特別損失に計上せず、雑支出に計上している。

(ウ) 本部は、平成21年度心神喪失者等医療観察法指定入院医療機関運営費負担金（国庫負担金）の精算返還金のうち、開設初年度のみに交付される負担金に係る返還金が3億1,010万5,914円生じているにもかかわらず、特別損失に計上せず、経常費用として雑支出に計上している。

この結果、合計すると、3億6,701万5,803円が雑支出で過大に、特別損失で過少に計上されている。

本部は、雑支出及び特別損失を適正に計上されたい。

### 第3 経営状況の概要

#### 1 経営成績について

##### (1) 業務実績について

##### ア 入院患者実績について

当年度の入院患者実績は、表2のとおり、145万147人であり、前年度(144万3,539人)と比較して6,608人(0.5%)増加している。

これは主に、再編整備を行っていた多摩総合医療センター及び小児総合医療センターが本格稼動したことによるものである。

(表2) 入院患者の実績比較表

(単位：床、人、%)

区分	平成22年度			平成21年度			対前年度比較(増△減)			
	病床数	一日当り	年延べ(A)	病床数	一日当り	年延べ(B)	病床数	一日当り	年延べ (C)=(A)-(B)	率 (C)/(B)×100
普通病院	3,553	2,909	1,062,146	3,563	2,952	1,077,547	△ 10	△ 43	△ 15,401	△ 1.4
広尾	476	407	148,293	476	406	148,256	0	1	37	0.0
大塚	500	415	151,562	500	422	153,970	0	△ 7	△ 2,408	△ 1.6
駒込	801	586	214,046	801	679	247,915	0	△ 93	△ 33,869	△ 13.7
墨東	729	628	229,330	729	622	227,044	0	6	2,286	1.0
多摩総合 (府中)	751	610	222,920	761	551	201,250	△ 10	59	21,670	10.8
神経	296	263	95,995	296	272	99,112	0	△ 9	△ 3,117	△ 3.1
小児病院	549	368	134,133	345	319	69,741	204	49	64,392	92.3
清瀬	—	—	—	255	136	47,457	△ 255	△ 136	△ 47,457	△ 100
八王子	—	—	—	90	52	18,238	△ 90	△ 52	△ 18,238	△ 100
小児総合	549	368	134,133	—	131	4,046	549	237	130,087	—
精神科病院	862	696	253,868	1,074	817	296,251	△ 212	△ 121	△ 42,383	△ 14.3
松沢	862	696	253,868	832	691	252,383	30	5	1,485	0.6
梅ヶ丘	—	—	—	242	126	43,868	△ 242	△ 126	△ 43,868	△ 100
合計	4,964	3,973	1,450,147	4,982	4,088	1,443,539	△ 18	△ 115	6,608	0.5

(注) 病床数は、予算定床数である。

病床種別の病床数及び病床利用率は、表3のとおりである。病床数は、前年度に比較して全体で18床の減少となっている。これは、清瀬、八王子及び梅ヶ丘の小児3病院が小児総合医療センターに再編整備されたこと等によるものである。病床利用率は、80.0%となっている。

(表3) 病床種別の病床数及び病床利用率比較表

(単位：床、人、%)

区 分	平成22年度				平成21年度				対前年度比較 (増△減)			
	病床数	一日当り	年延べ	利用率	病床数	一日当り	年延べ	利用率	病床数	一日当り	年延べ	利用率
普通病床	3,769	3,100	1,131,606	82.3	3,769	3,181	1,124,080	81.7	0	△ 81	7,526	0.6
精神病床	1,095	849	309,540	77.4	1,107	879	309,853	76.9	△ 12	△ 30	△ 313	0.5
結核病床	60	24	8,933	40.8	86	28	9,490	31.0	△ 26	△ 4	△ 557	9.8
感染症病床	40	0	68	0.5	20	0	116	1.6	20	0	△ 48	△ 1.1
合 計	4,964	3,973	1,450,147	80.0	4,982	4,088	1,443,539	79.4	△ 18	△ 115	6,608	0.6

(注) 1 病床数は、予算定床数である。

2 病床利用率は、年延べ患者数を病床数×暦日で除したものである。

3 精神病床は広尾・墨東・多摩総合・小児総合・松沢の各病院に、結核病床は多摩総合・小児総合の各病院に、感染症病床は駒込・墨東の各病院に設置している。

## イ 外来患者実績について

当年度の外来患者実績は、表4のとおり、181万7,496人であり、前年度(178万3,161人)と比較して3万4,335人(1.9%)増加している。これは、小児総合医療センター、墨東病院及び大塚病院等の外来患者の増加によるものである。

(表4) 外来患者の実績比較表

(単位：人、%)

区 分	平成22年度		平成21年度		対前年度比較 (増△減)		
	一日当り	年延べ(A)	一日当り	年延べ(B)	一日当り	年延べ (C)=(A)-(B)	率 (C)/(B)×100
普通病院	5,300	1,558,137	5,318	1,558,262	△ 18	△ 125	△ 0.0
広尾	727	213,710	744	218,146	△ 17	△ 4,436	△ 2.0
大塚	819	240,871	806	236,244	13	4,627	2.0
駒込	1,151	338,302	1,182	346,238	△ 31	△ 7,936	△ 2.3
墨東	1,172	344,621	1,147	335,958	25	8,663	2.6
多摩総合(府中)	1,412	415,084	1,420	416,197	△ 8	△ 1,113	△ 0.3
神経	19	5,549	19	5,479	0	70	1.3
小児病院	548	161,129	570	88,750	△ 22	72,379	81.6
清瀬	—	—	229	64,251	△ 229	△ 64,251	△ 100
八王子	—	—	62	17,236	△ 62	△ 17,236	△ 100
小児総合	548	161,129	279	7,263	269	153,866	—
精神科病院	334	98,230	471	136,149	△ 137	△ 37,919	△ 27.9
松沢	334	98,230	329	96,386	5	1,844	1.9
梅ヶ丘	—	—	142	39,763	△ 142	△ 39,763	△ 100
合 計	6,182	1,817,496	6,359	1,783,161	△ 177	34,335	1.9

(注) 1 「平成21年度・1日当り」欄における清瀬小児、八王子、梅ヶ丘の各病院及び小児総合の表示人数は、年度途中における廃止前又は開設後の規模である。

(2) 経営成績について

平成22年度における経営成績は、表5（詳細は、別表1比較損益計算書）のとおりである。医業損失は、228億余円であり、前年度（230億余円）と比較して、2億余円（1.0%）減少している。経常利益は、20億余円であり、前年度（23億余円）と比較して、2億余円（12.3%）減少している。

平成22年度は、特別利益の計上がないため、純利益は、4億余円となっており、前年度（115億余円）と比較して、110億余円（95.7%）減少している。

(表5) 経営成績比較表

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度 (A)	平成21年度 (B)	増 (△) 減	
			金 額 (C)=(A)-(B)	率 (C)/(B)×100
医 業 収 益	111,664	103,507	8,157	7.9
医 業 費 用	134,501	126,580	7,921	6.3
医 業 損 失	22,837	23,072	△ 235	△ 1.0
医 業 外 収 益	31,040	31,186	△ 145	△ 0.5
医 業 外 費 用	6,110	5,727	383	6.7
経 常 利 益	2,092	2,385	△ 293	△ 12.3
特 別 利 益	0	11,248	△ 11,248	△ 100
特 別 損 失	1,592	2,091	△ 498	△ 23.8
純 利 益	499	11,542	△ 11,042	△ 95.7

ア 収益について

総収益は、表6のとおり、1,427億余円であり、前年度（1,459億余円）と比較して、32億余円（2.2%）減少している。

これは主に、入院収益が76億余円増加しているものの、特別利益が112億余円減少していることによるものである。

医業収益は1,116億余円であり、前年度（1,035億余円）と比較して、81億余円（7.9%）増加している。

これは主に、入院収益が76億余円増加したことによるものである。入院収益の増加は、主に、診療報酬改定等に伴う入院単価の増加によるもの並びに再編整備を行っていた多摩総合医療センター及び小児総合医療センターが本格稼動したこと等に伴う患者数の増加によるものである。

医業外収益は310億余円であり、前年度（311億余円）と比較して、1億余円（0.5%）減少している。

これは主に、国庫補助金が1億余円減少したことによるものである。国庫補助金の減少は、平成22年3月に開設した松沢病院の心神喪失者等医療観察法指定入院医療機関運営費負担金が減少したことなどによるものである。

（表6）収益比較表

（単位：百万円、%）

区 分	平成22年度 (A)	平成21年度 (B)	増(△)減	
			金 額	率
			(C)=(A)-(B)	(C)/(B)×100
医業収益	111,664	103,507	8,157	7.9
入院収益	66,164	58,487	7,677	13.1
外来収益	24,005	22,720	1,284	5.7
一般会計負担金	19,994	20,953	△ 959	△ 4.6
その他医業収益	1,500	1,345	154	11.5
医業外収益	31,040	31,186	△ 145	△ 0.5
受取利息及配当金	3,035	3,119	△ 83	△ 2.7
一般会計負担金	1,293	1,299	△ 5	△ 0.5
一般会計補助金	23,972	23,815	157	0.7
国庫補助金	573	756	△ 183	△ 24.2
その他医業外収益	2,164	2,194	△ 30	△ 1.4
特別利益	0	11,248	△ 11,248	△ 100
総収益	142,704	145,941	△ 3,236	△ 2.2

一般会計からの繰入金は、表7のとおり、452億余円であり、前年度（460億余円）と比較して、8億余円減少している。

(表7) 一般会計繰入金内訳比較表

(単位：百万円)

区 分	平成22年度	平成21年度	増(△)減
一般会計負担金	21,288	22,253	△ 965
医業収益	19,994	20,953	△ 959
救急医療経費	6,095	6,822	△ 727
精神科病院運営経費	8,948	7,175	1,772
小児医療経費	3,302	4,930	△ 1,627
保健衛生行政経費	1,648	2,025	△ 376
医業外収益	1,293	1,299	△ 5
建設又は改良に要する経費	1,293	1,299	△ 5
一般会計補助金	23,972	23,815	157
医業外収益	23,972	23,815	157
高度医療経費	12,978	12,493	485
特殊医療経費	10,070	10,496	△ 426
建設又は改良に要する経費	924	825	98
合 計	45,261	46,069	△ 808

## イ 費用について

総費用は、表8のとおり、1,422億余円であり、前年度(1,343億余円)と比較して、78億余円(5.8%)増加している。

医業費用は、1,345億余円であり、前年度(1,265億余円)と比較して、79億余円(6.3%)増加している。これは主に、多摩総合医療センター及び小児総合医療センターの開設に伴い、薬品費等が経費に振り替わったこと、これらの病院が本格稼動したことに伴い委託料が増加したことなどにより、材料費が63億余円減少したものの、経費が71億余円増加したこと及び看護要員の人員増などにより、給与費が35億余円増加したことによるものである。

医業外費用は、61億余円であり、前年度(57億余円)と比較して、3億余円(6.7%)増加している。これは主に、国庫補助金の返還などにより、雑支出が2億余円増加したことなどによるものである。



特別損失は、15億余円を計上している。これは主に、駒込病院の改修工事に伴う本館の部分除却が13億余円発生したことによるものである。

なお、給与費・職員数等については、表9のとおりである。

(表8) 費用比較表

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度 (A)	平成21年度 (B)	増(△)減	
			金額 (C)=(A)-(B)	率 (C)/(B)×100
医業費用	134,501	126,580	7,921	6.3
給与費	69,076	65,483	3,593	5.5
材料費	12,405	18,757	△ 6,351	△ 33.9
経費	39,157	32,043	7,114	22.2
減価償却費	12,728	9,249	3,478	37.6
資産減耗費	229	125	103	82.5
研究研修費	904	920	△ 16	△ 1.8
医業外費用	6,110	5,727	383	6.7
支払利息及企業債取扱諸費	2,214	2,121	93	4.4
繰延勘定償却	625	559	66	11.8
雑支出	3,270	3,046	224	7.4
特別損失	1,592	2,091	△ 498	△ 23.8
総費用	142,205	134,399	7,806	5.8

(表9) 給与費明細比較表

(単位：百万円)

区 分	平成22年度	平成21年度	増(△)減
給料	24,873	23,846	1,026
職員手当	24,599	23,309	1,289
法定福利費	9,519	8,212	1,307
計	58,992	55,369	3,623
職員数	6,450人	6,059人	391人
平均年齢	40歳2月	40歳6月	△ 0歳4月
職員1人当たり給与費	7,538千円	7,726千円	△ 188千円

- (注) 1 職員数及び平均年齢は、年度末現在である。また、職員数には、再任用短時間勤務者(平成22年度129人、平成21年度115人)を含む。  
 2 職員1人当たり給与費は、(給料+手当)÷月当たり平均職員数である。  
 3 職員は、すべて損益勘定部門に所属している。

事業の収益性を示す経営指標は、表10のとおりである。平成22年度は、特別利益が計上されていないため、総費用対総収益比率が前年度より悪化している。

その他の指標は、横ばいとなっている。

(表10) 経営比率の推移

(単位：%)

項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	算式
経営資本 営業利益率	△ 13.5	△ 14.0	△ 12.4	△ 10.1	△ 10.0	$\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}}$
営業収益 営業利益率	△ 20.5	△ 21.1	△ 21.1	△ 22.3	△ 20.5	$\frac{\text{営業利益}}{\text{営業収益}}$
総費用対 総収益比率	100.0	92.7	98.8	92.1	99.7	$\frac{\text{総費用}}{\text{総収益}}$
自己収支比率	70.9	70.4	70.4	67.0	69.3	$\frac{\text{病院事業収益}}{\text{病院事業費用}}$

(注) 1 経営資本＝総資本－（建設仮勘定＋投資＋繰延勘定）

2 自己収支比率＝病院事業収益（一般会計繰入金及び特別利益を除く。）÷病院事業費用（特別損失を除く。）

## 2 財政状態について

### (1) 資本的収支について

資本取引に係る資金の動きを示す資本的収支の状況は、表11のとおりである。

資本的収入は、195億余円であり、前年度（333億余円）と比較して、138億余円（41.4%）減少している。

これは主に、一般会計出資金が50億円（100%）、企業債収入が56億余円（22.6%）減少したことによるものである。

資本的支出は、326億余円であり、前年度（464億余円）と比較して、138億余円（29.8%）減少している。

これは主に、企業債償還金が13億余円（23.5%）増加したものの、建設改良費が152億余円（37.7%）減少したことによるものである。

資金収支の状況は、表12のとおり、差引額は130億余円の財源不足となっている。これを損益勘定留保資金等で補てんした結果、全体としては12億余円の財源余剰となっている。

なお、当年度末における資金残高は、表13のとおりである。

(表 1 1) 資本的収支比較表

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度 (A)	平成21年度 (B)	増(△) 減		
			金 額 (C)=(A)-(B)	率 (C)/(B)×100	
資本的 収入	企業債	19,438	25,118	△ 5,680	△ 22.6
	国庫補助金	1	915	△ 914	△ 99.9
	固定資産売却収入	0	2,261	△ 2,261	△ 100
	その他資本収入	89	57	32	56.5
	一般会計出資金	0	5,000	△ 5,000	△ 100
	計	19,529	33,353	△ 13,823	△ 41.4
資本的 支出	建設改良費	25,219	40,476	△ 15,257	△ 37.7
	企業債償還金	7,333	5,938	1,394	23.5
	国庫補助金返還金	50	0	50	—
	計	32,603	46,415	△ 13,812	△ 29.8
差引資本的収支	△ 13,073	△ 13,061	△ 11	0.1	

(表 1 2) 資金収支表

(単位：百万円)

支 出		収 入	
項 目	金 額	項 目	金 額
資本的支出 (A)	32,603	資本的収入 (B)	19,529
		資本的収支資金不足額 (C) = (A) - (B)	13,073
		当期純利益	499
		年賦未収金受払	1,562
		不動産信託受益権	△ 3,000
		損益勘定留保資金	15,155
		(減価償却費)	12,728
		(繰延勘定償却)	625
		(企業債発行差金)	8
		(固定資産除却費等)	1,792
		消費税資本的収支調整額	81
		計 (D)	14,299
収益的収支の資金剰余額 (E) = (D)	14,299		
当年度資金剰余額 (F) = (E) - (C)	1,225		
合計 (A) + (F)	33,828	合計 (B) + (D)	33,828

(表 1 3) 年度末資金残高表

(単位：百万円)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
流動資産 (A)	40,063	45,433	73,605	83,723	76,560
流動負債 (B)	15,233	19,353	40,000	48,953	40,564
年度末資金残高 (A - B)	24,830	26,079	33,604	34,770	35,996

## (2) 資産、負債及び資本について

当年度末の資産、負債及び資本の状況は、別表 2 比較貸借対照表のとおりである。

資産総額は、2,745 億余円で、前年度 (2,702 億余円) と比較して、42 億余円 (1.6%) 増加している。

これは流動資産が 71 億余円減少しているものの、固定資産が 109 億余円増加したことによるものである。

流動資産の減少は、主に、未収金が 36 億余円、現金預金が 35 億余円減少したことによるものである。

固定資産の増加は、主に、がん・感染症医療センター (仮称) 整備事業に伴う建物の増加などにより、有形固定資産が 109 億余円増加したことなどによるものである。

負債総額は、405 億余円であり、前年度 (489 億余円) と比較して、83 億余円 (17.1%) 減少している。

これは主に、その他未払金が 19 億余円増加しているものの、多摩総合医療センター及び小児総合医療センターの施設整備の終了などにより、建設改良未払金が 92 億余円減少したことによるものである。

資本総額は、2,339 億余円であり、前年度 (2,212 億余円) と比較して、126 億余円 (5.7%) 増加している。

これは主に、企業債が 121 億余円増加したことによるものである。

次に、当年度における有利子負債及び支払利息等の状況は、表 1 4 のとおりであり、有利子負債は、121 億余円増加している。

(表 1 4) 有利子負債及び支払利息等の状況

(単位：百万円)

区 分		平成22年度末 残高(A)	平成22年度		平成21年度末 残高(B)	増(△)減 (A)-(B)
			増 加	減 少		
有利子負債	企業債	117,842	19,447	7,333	105,728	12,113
区 分		平成22年度支払額 (C)		平成21年度支払額 (D)		増(△)減 (C)-(D)
支払利息等	支払利息及 企業債取扱諸費	2,205		2,108		96

以上の財政状態を財務比率の推移で見ると、表 1 5 のとおりである。

多摩総合医療センター及び小児総合医療センターの施設整備事業の終了による建設改良未払金が減少したため、流動比率は改善している。

その他の指標は、横ばいとなっている。

(表 1 5) 財務比率の推移

(単位：%)

項 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	算 式
流動比率	263.0	234.8	184.0	171.0	188.7	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
自己資本構成比率	40.8	45.8	39.7	42.8	42.3	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$
固定長期適合率	84.3	83.4	81.6	81.7	82.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{長期資本}}$

(注) 1 自己資本=自己資本金+剰余金

2 長期資本=資本金(自己資本金+借入資本金)+剰余金+固定負債

### 3 建設改良事業について

建設改良事業は、建設改良工事、器械及備品の整備を行っており、表 1 6 のとおり、予算額 3 0 1 億余円に対し、決算額 2 5 2 億余円であり、執行率 8 3 . 6 % となっている。

(表 1 6) 建設改良事業執行状況

(単位：百万円、%)

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	執行率(B)/(A)×100	不用額(A)-(B)
建設改良工事	25,133	21,139	84.1	3,993
器械及備品	5,051	4,079	80.8	971
計	30,184	25,219	83.6	4,964

(1) 建設改良工事について

建設改良工事は、予算額251億余円に対し、決算額211億余円であり、執行率は84.1%となっている。

工事の主なものは、がん・感染症医療センター（仮称）の整備（117億余円）、精神医療センター（仮称）の整備（71億余円）である。

(2) 器械及備品の整備について

器械及備品の整備は、予算額50億余円に対し、決算額40億余円であり、執行率は80.8%となっている。

整備購入した医療器械の主なものは、墨東病院のMRI（磁気共鳴断層撮影装置）（1億8千万余円）、駒込病院の放射線画像基盤システム（1億8千万余円）である。

## (別表1) 比較損益計算書

(単位：円、%)

科 目	平成22年度	平成21年度	増 (△) 減	
	金 額 (A)	金 額 (B)	金 額 (C) = (A) - (B)	率 (C) / (B) × 100
医業収益	111,664,583,106	103,507,364,854	8,157,218,252	7.9
入院収益	66,164,373,679	58,487,327,600	7,677,046,079	13.1
外来収益	24,005,191,837	22,720,472,728	1,284,719,109	5.7
一般会計負担金	19,994,603,000	20,953,730,000	△ 959,127,000	△ 4.6
その他医業収益	1,500,414,590	1,345,834,526	154,580,064	11.5
医業費用	134,501,737,710	126,580,097,519	7,921,640,191	6.3
給与費	69,076,844,633	65,483,476,188	3,593,368,445	5.5
材料費	12,405,766,367	18,757,635,234	△ 6,351,868,867	△ 33.9
経費	39,157,306,912	32,043,302,633	7,114,004,279	22.2
減価償却費	12,728,529,505	9,249,557,622	3,478,971,883	37.6
資産減耗費	229,284,671	125,643,554	103,641,117	82.5
研究研修費	904,005,622	920,482,288	△ 16,476,666	△ 1.8
医業損失	22,837,154,604	23,072,732,665	△ 235,578,061	△ 1.0
医業外収益	31,040,241,267	31,186,117,178	△ 145,875,911	△ 0.5
受取利息及配当金	3,035,960,761	3,119,402,198	△ 83,441,437	△ 2.7
一般会計負担金	1,293,623,000	1,299,571,000	△ 5,948,000	△ 0.5
一般会計補助金	23,972,774,000	23,815,699,000	157,075,000	0.7
国庫補助金	573,710,287	756,953,864	△ 183,243,577	△ 24.2
その他医業外収益	2,164,173,219	2,194,491,116	△ 30,317,897	△ 1.4
医業外費用	6,110,837,094	5,727,504,399	383,332,695	6.7
支払利息及企業債取扱諸費	2,214,461,323	2,121,449,606	93,011,717	4.4
繰延勘定償却	625,797,093	559,779,418	66,017,675	11.8
雑支出	3,270,578,678	3,046,275,375	224,303,303	7.4
経常利益	2,092,249,569	2,385,880,114	△ 293,630,545	△ 12.3
特別利益	0	11,248,058,766	△ 11,248,058,766	△ 100
特別損失	1,592,857,165	2,091,601,539	△ 498,744,374	△ 23.8
当年度純利益	499,392,404	11,542,337,341	△ 11,042,944,937	△ 95.7
当年度未処分利益剰余金	499,392,404	11,542,337,341	△ 11,042,944,937	△ 95.7

(別表2) 比較貸借対照表

(単位：円、%)

科 目	平成22年度		平成21年度		増 (△) 減	
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	金 額 (C) = (A) - (B)	率 (C)/(B) × 100
固定資産	191,827,881,463	69.9	180,877,881,663	66.9	10,949,999,800	6.1
有形固定資産	162,209,001,901	59.1	151,230,104,564	56.0	10,978,897,337	7.3
土地	1,062,342,577	0.4	1,062,342,577	0.4	0	0
立木	53,839,104	0.0	53,958,854	0.0	△ 119,750	△ 0.2
建物	206,379,479,907	75.2	198,910,191,191	73.6	7,469,288,716	3.8
建物減価償却累計額	△ 88,217,770,855	△ 32.1	△ 87,654,960,731	△ 32.4	△ 562,810,124	0.6
構築物	8,840,450,838	3.2	8,549,883,414	3.2	290,567,424	3.4
構築物減価償却累計額	△ 5,521,043,214	△ 2.0	△ 5,334,111,220	△ 2.0	△ 186,931,994	3.5
器械及備品	71,557,023,827	26.1	71,687,553,944	26.5	△ 130,530,117	△ 0.2
器械及備品減価償却累計額	△ 44,549,338,086	△ 16.2	△ 43,219,540,672	△ 16.0	△ 1,329,797,414	3.1
車両	91,197,300	0.0	91,197,300	0.0	0	0
車両減価償却累計額	△ 64,684,239	△ 0.0	△ 56,936,280	△ 0.0	△ 7,747,959	13.6
建設仮勘定	12,577,504,742	4.6	7,140,526,187	2.6	5,436,978,555	76.1
無形固定資産	1,179,899,454	0.4	1,236,666,799	0.5	△ 56,767,345	△ 4.6
無形固定資産	1,148,899,454	0.4	1,236,666,799	0.5	△ 87,767,345	△ 7.1
ソフトウェア仮勘定	31,000,000	0.0	0	0.0	31,000,000	—
投資	28,438,980,108	10.4	28,411,110,300	10.5	27,869,808	0.1
年賦未収金	6,805,400,283	2.5	8,368,145,444	3.1	△ 1,562,745,161	△ 18.7
不動産信託受益権	44,807,928,880	16.3	41,807,684,932	15.5	3,000,243,948	7.2
不動産信託仮勘定	△ 23,252,580,555	△ 8.5	△ 21,844,016,076	△ 8.1	△ 1,408,564,479	6.4
その他投資	78,231,500	0.0	79,296,000	0.0	△ 1,064,500	△ 1.3
流動資産	76,560,195,855	27.9	83,723,649,373	31.0	△ 7,163,453,518	△ 8.6
現金預金	54,206,436,221	19.7	57,778,092,737	21.4	△ 3,571,656,516	△ 6.2
現金	49,225,719	0.0	44,072,098	0.0	5,153,621	11.7
預金	54,157,210,502	19.7	57,734,020,639	21.4	△ 3,576,810,137	△ 6.2
未収金	21,633,349,728	7.9	25,315,700,986	9.4	△ 3,682,351,258	△ 14.5
医業未収金	18,942,155,434	6.9	15,363,753,828	5.7	3,578,401,606	23.3
医業外未収金	284,466,432	0.1	325,328,827	0.1	△ 40,862,395	△ 12.6
その他未収金	2,406,727,862	0.9	9,626,618,331	3.6	△ 7,219,890,469	△ 75.0
貯蔵品	720,274,834	0.3	628,970,859	0.2	91,303,975	14.5
材料	709,105,965	0.3	616,458,796	0.2	92,647,169	15.0
その他貯蔵品	11,168,869	0.0	12,512,063	0.0	△ 1,343,194	△ 10.7
その他流動資産	135,072	0.0	884,791	0.0	△ 749,719	△ 84.7
前払金	135,072	0.0	884,791	0.0	△ 749,719	△ 84.7
繰延勘定	6,124,294,601	2.2	5,636,720,623	2.1	487,573,978	8.6
控除対象外消費税額	6,124,294,601	2.2	5,636,720,623	2.1	487,573,978	8.6
控除対象外消費税額	6,124,294,601	2.2	5,636,720,623	2.1	487,573,978	8.6
資産合計	274,512,371,919	100	270,238,251,659	100	4,274,120,260	1.6



(単位:円、%)

科 目	平成22年度		平成21年度		増 (△) 減	
	金 額 (A)	構成比	金 額 (B)	構成比	金 額 (C) = (A) - (B)	率 (C)/(B) × 100
流動負債	40,564,108,394	14.8	48,953,051,113	18.1	△ 8,388,942,719	△ 17.1
未払金	40,552,334,644	14.8	48,946,864,724	18.1	△ 8,394,530,080	△ 17.2
医業未払金	13,302,809,195	4.8	14,409,632,832	5.3	△ 1,106,823,637	△ 7.7
建設改良未払金	24,502,649,972	8.9	33,712,528,105	12.5	△ 9,209,878,133	△ 27.3
貯蔵品購入未払金	525,358,570	0.2	513,347,146	0.2	12,011,424	2.3
未払消費税及地方消費税	8,636,100	0.0	44,790,400	0.0	△ 36,154,300	△ 80.7
過誤納還付金	5,349,032	0.0	4,136,426	0.0	1,212,606	29.3
その他未払金	2,207,531,775	0.8	262,429,815	0.1	1,945,101,960	741.2
その他流動負債	11,773,750	0.0	6,186,389	0.0	5,587,361	90.3
預り金	4,086,189	0.0	1,888,216	0.0	2,197,973	116.4
その他流動負債	7,687,561	0.0	4,298,173	0.0	3,389,388	78.9
負債合計	40,564,108,394	14.8	48,953,051,113	18.1	△ 8,388,942,719	△ 17.1
資本金	221,392,853,198	80.6	201,945,853,198	74.7	19,447,000,000	9.6
自己資本金	103,550,782,206	37.7	96,217,093,294	35.6	7,333,688,912	7.6
借入資本金	117,842,070,992	42.9	105,728,759,904	39.1	12,113,311,088	11.5
企業債	117,842,070,992	42.9	105,728,759,904	39.1	12,113,311,088	11.5
剰余金	12,555,410,327	4.6	19,339,347,348	7.2	△ 6,783,937,021	△ 35.1
資本剰余金	7,847,369,494	2.9	7,797,010,007	2.9	50,359,487	0.6
受贈財産評価額	3,180,611,027	1.2	3,142,652,777	1.2	37,958,250	1.2
国庫補助金	4,279,423,186	1.6	4,347,253,249	1.6	△ 67,830,063	△ 1.6
その他資本剰余金	387,335,281	0.1	307,103,981	0.1	80,231,300	26.1
利益剰余金	4,708,040,833	1.7	11,542,337,341	4.3	△ 6,834,296,508	△ 59.2
減債積立金	4,208,648,429	1.5	0	0.0	4,208,648,429	—
当年度未処分利益剰余金	499,392,404	0.2	11,542,337,341	4.3	△ 11,042,944,937	△ 95.7
資本合計	233,948,263,525	85.2	221,285,200,546	81.9	12,663,062,979	5.7
負債・資本合計	274,512,371,919	100	270,238,251,659	100	4,274,120,260	1.6